

CSRの取り組み

東京スター銀行は、企業としての社会的責任を果たし、社会・お客さまとともに発展していくため、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。そして、これらの活動を実施する際の指針となる基本方針として、「社会への貢献」「次世代を担う人材の育成」「ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境の提供」の3項目を掲げています。

CSRの基本方針

社会への貢献

持続可能な社会の実現のため、役職員によるさまざまな活動を行い、お客さま、地域社会、地球環境などへ貢献するとともに、役職員が生き活きと働き、よりお客さまと社会の役に立ち、社会とともに持続的に成長する会社となることを目指しています。

<取り組み>

- ★ すべてのお客さまに「満足」いただける銀行を目指す
- ★ 環境に配慮した取り組み
- ★ 行員参加の地域社会への貢献

次世代を担う人材の育成

未来の社会がより豊かなものとなることを目指して、次世代を担う若者や子どもが、将来、希望を持って自立した人生を歩んでいけるよう、金融教育や、貧困・虐待などの社会課題解決に向けた活動を行っています。

<取り組み>

- ★ 子どもの貧困解決への取り組み「東京スター 子ども応援プロジェクト」
- ★ 子ども・若者のための金融教育「お金のスタートレーニング」
- ★ 子ども虐待防止「オレンジリボン・キャンペーン」

ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境の提供

「ダイバーシティ推進は成長の源泉」であり、多様な人材が生き活きと働くことが、組織の活性化や新たな価値創造につながると考えています。お客さまのさまざまなニーズにお応えするべく、多様な視点をビジネスに反映させ、より良いサービスを提供することを目指しています。

<取り組み>

- ★ ダイバーシティ組織風土の醸成
- ★ ワークライフバランスの推進

関連するSDGs



※ [SDGs] :Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。2015年9月に国連サミットにおいて採択され、国連に加盟する193カ国すべての国がその目標達成に向けた取り組みを行うことが決定している。2030年までの15年間で、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰も置き去りにしないことを確保するための取り組みとして、17の目標と169のターゲットから構成されている。

社会への貢献

当行は、持続可能な社会の実現のため、役職員によるさまざまな活動を行い、お客さま、地域社会、地球環境などへ貢献するとともに、自ら考え、より自発的に仕事に取り組む姿勢を持った人材の育成や働きがいのある社風を醸成することで、社会とともに発展することを目指しています。

● 東日本大震災への取り組み

当行は、東日本大震災から10年が経った2021年、東日本大震災の復興支援として「東京スター寄付型法人定期預金」を募集しました。当行は、集まった預金残高の0.01%相当額を被災した子どもたちとその家族の支援を行う「公益財団法人東日本大震災復興支援財団」へ寄付を行いました。

また、改めて甚大な被害を出した震災を振り返るとともに、行員有志から募金を行いました。30名から約22万円が集まり、同財団へ寄付いたしました。

「公益財団法人東日本大震災復興支援財団」は、被災した子どもたちとその家族の支援を行うため2011年6月に設立され、高校生向けの返還不要の給付型奨学金「まなべる基金」や震災復興を行うNPO団体への助成事業「子どもサポート基金」など、子どもたちの夢と希望を育む環境を実現するため「みんなががんばろう日本」をスローガンに継続的に支援を行っています。

みんなが
がんばろう
日本 ●
公益財団法人
東日本大震災復興支援財団

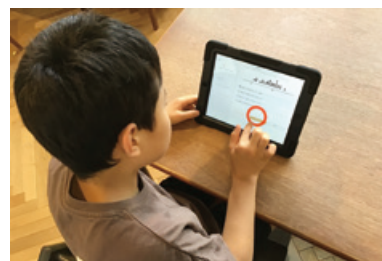


● 行員参加による地域社会への貢献

地域金融機関として地域社会に貢献するため、行員がボランティアに参加する機会を提供しています。

自宅でできるボランティアとして、NPO法人eboardが実施した「やさしい字幕プロジェクト」に参加しました。NPO法人eboardは、「学びをあきらめない社会の実現」をミッションに、子どもたち一人ひとりの学びの機会を保障する活動を行っており、小学校1年生から中学生までの教育課程のほぼ全教科の2,000本以上の映像教材を提供しています。「やさしい字幕プロジェクト」に有志の行員21名が参加し、映像だけでは学習が困難な子ども（ろう・難聴、学習障害、日本語の理解が難しい外国籍等）の学習の助けになるように字幕を付ける作業を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で、献血供給が減っている状況を受け、行内で献血を推進するキャンペーンを行いました。



次世代を担う人材の育成

当行は、未来の社会がより豊かなものとなることを目指して、次世代を担う若者や子どもが、将来、希望を持って自立した生活を送ることができるよう、金融教育や、貧困・虐待などの社会課題に関する啓発活動を行っています。

● 東京スター 子ども応援プロジェクト



現在、日本で増加傾向にある「子どもの貧困」においては、単純な経済的困窮だけでなく、さまざまな不利を同時に抱えているために、次世代への貧困の連鎖が大きな問題となっています。当行では、2019年より子どもの貧困解決のため、「東京スター 子ども応援プロジェクト」として3つの施策を推進しています。

東京スター銀行奨学金

東京スター銀行では、NPO法人ブリッジフォースマイルと連携し、社会的養護施設出身者等を対象にした奨学金制度『東京スター銀行奨学金』を提供しています。金銭的支援だけでなく、行員ボランティアのメンターが1対1でつき、精神的にもサポートしています。また、金銭管理でのつまずきが多くあるという支援者の話を伺い、2021年の募集からは家計簿等でお金を管理することで毎月の奨学金を受け取れるように変更し、これまで当行で実施してきた金融教育の経験を活かしながら子どもたちを支援しています。

シングルマザーへの就労支援

日本のシングルマザーは、就労率が他国と比べて高い水準にあるにも関わらず、雇用形態などにより就労収入が低いことが課題とされています。当行では、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむと連携し、シングルマザーのための就労支援プログラムを実施しています。同プログラムでは、シングルマザー向けにビジネスマナー・パソコンスキルなどのキャリアアップ講座とライフプラン、教育費などシングルマザーとしての生活に必要な生活知識の講座を提供しています。2020年の受講者のうち、3割が講座実施後、4ヵ月以内に転職や正社員登用等の就労条件の向上が見られました。2021年の講座は、昨今の社会情勢に鑑み、全講座オンラインでの実施として、全国から参加いただけるようにしました。

子ども食堂への寄付

子どもたちの成長環境が温かく、豊かなものになるように、地域の親子に食事を無料または低価格で提供し、温かい居場所づくり・交流拠点づくりを推進する子ども食堂を支援しています。新型コロナウイルス感染症対応のため、食品を対象者に渡すフードパントリーの活動を中心に支援しました。

当行では、2021年から、子ども食堂が安定的に継続していくため、金融機関の強みであるコンプライアンスへの取り組みを活かして作成した“安心・安全プログラム”を支援している食堂に提供しています。“安心・安全プログラム”とは、子どもたちや職員・スタッフだけでなく、ボランティアや保護者、地域の方々など子ども食堂に関わる皆さまの安心・安全のサポートを目的とし、ハラスメントや肖像権、プライバシー、個人情報の取り扱いなどを正しく理解し、子ども食堂が健全に運営されるための啓発活動や運営ルールづくり、相談窓口の設置、リスクマネジメント体制の構築などについて、各子ども食堂の取り組みをサポートするものです。

子ども食堂が地域に定着し、より多くの親子を支援していけるよう、当行は今後も子ども食堂の取り組みを応援していきます。

ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境の提供

● 新しいバリューの「Caring」にフォーカスした「Care Center」

当行では、2021年4月に新たな経営理念(ミッション、ビジョン、バリュー)を策定しました。新たな経営理念には、お客さまはもちろん、行員、株主、地域社会といったすべてのステークホルダーに「安心」して「信頼」を寄せいただける存在になる、という想いが込められています。4つのバリューのうち、新しいバリューの「Caring」にフォーカスした「Care Center」では、「Diversity & Inclusion」「Personal Career」「Language」「Foreign Staff」「Well-Being」の5つの領域に特化したSub Centerが、それぞれのテーマに基づいた施策を展開しています。

Sub Centerは、行員がリーダーを務め、執行役がリーダーをサポートする体制としています。一味違った目線で、新しい発想、斬新なアイデアを生み、広く行内に展開していくことを企図して、リーダーと執行役は、なるべく所属部門が異なる組み合わせとし、執行役は、所管する領域とは異なるSub Centerを担当するようにしています。また、Sub Center同士がコラボレーションした施策も推進しています。

Care Centerと各Sub Centerの目的

Care Center

行員が互いを思いやり、理解する文化を醸成する
行員が生き生きと安心して働ける環境を整備する

Diversity & Inclusion

他者(異なる考え方)を知り、認め合う社内文化を創る

Personal Career

共有文化で行員のキャリア形成を支援する

Language

互いにコミュニケーションをとり協力し合うことで、学習を継続できるコミュニティづくりを目指す

Foreign Staff

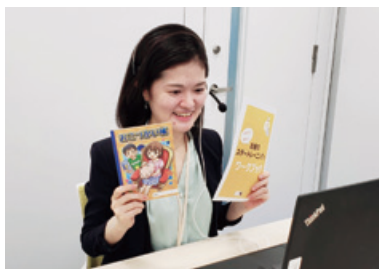
外国籍の行員にとって「魅力」と「安心」を感じられるような職場を創る

Well-Being

行員が生き生きとして、心身ともに健康で働きがいを感じられる職場を創る

● 家族参加型イベント「Caring in August」を開催

東京オリンピック開催期間にあたる、政府の「テレワーク・デイズ2021」に合わせて、「Diversity & Inclusion Center」では、他のSub Centerと協働で、複数の家族参加型イベントをとりまとめた「Caring in August」を主催しました。具体的には、行員の子どものためのオンライン金融・語学教室、普段他の職場を訪れる機会の少ない行員や行員の家族の職場理解を促す「行内オンラインツアー」、七夕節をテーマに行内の異文化の理解を深めるイベント「Star Festival」のほか、「幸せなひと時」をテーマに行員から募集した写真を休憩スペースで投影するなど、さまざまなイベントを展開しました。また、人事部においても同期間に「リフレッシュ・デイズ2021」を開催し、早帰り・休暇の取得、テレワークの積極的な利用を促進しました。東京オリンピックの観戦・応援に加えて、「Caring in August」で行われるさまざまな施策を活用し、家族との時間や余暇活動の充実、健康促進等を促すとともに、生産性や効率化を意識した新しいスタイルの働き方へのチャレンジを呼びかけました。



オンラインキッズイベント
「お金のスタートレーニング☆金トレ」



七夕節
「Star Festival」の様子(本店)